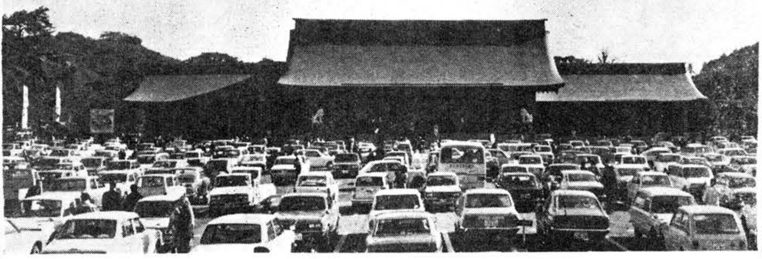
宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
宗像会
福岡県宗像郡玄海町
電話　神湊　代表26番
定価一年送料共　500円

新しい神域で迎える新春の祈り

ー全国各地から増える団体参拝ー



昭和四十七年も暮れようとしている大晦日午後五時（一年間の罪穢を払い除き心身共に清浄になる）大祓式を斎行、続いてこの年最後の祭、除夜祭を執り行った。

人々は新年を迎える数時間を思い思いの感慨で過ごしているのであろう、日頃自動車の往来が絶えない街道もひっそりし、境内では祭儀に参列する善男善女と準備する露店商人の動きを見るだけであった。

午後九時を過ぎると、正面参道太鼓橋、楼門の両側に大庭燎が点火され、暗い境内に真赤な炎を上げて燃えさかり、その光が楼門を浮きぼりにする。

十一時頃には、東郷東口参道を始め、各参道はマイカーで埋まりエンジンの音が釣川沿いにとどろく。

交通指導員のけたたましい警笛車の流れを刻々伝える無線器、ハンドマイク片手に飛び廻る駐車場整理員、交通整理に汗だくの警察官、たちまち五〇〇台収容の駐車場は飽和状態となり、予備駐車場（宝物館前広場）を活用しても尚足りぬ状態であった。

午前零時、豊栄昇る昭和四十七年元旦が明けた。

本殿に参拝し、思い思いの御神徳を願い浄闇に響く拍手の音、授与所で御札を受け、御神酒を戴く人々、摂末社を廻り記念撮影する家族連れ、おみくじを楢の葉に結び何やら自問自答している娘さん、あちこちで交わされる新年の挨拶、露店で焼イカに口も忙しい学生、福笹を幼児に鳴らしてあやす若い父親、新春にふさわしい情景があちこちに見られる。

祈願殿に於ては、新年の交通安全大祈願祭が斎行され、九州一円はもとより、遠くは関東方面からの参拝もあり大祈願所もたちまちいっぱいとなった。

宗像大神（道主貴）の御神徳を蒙り明日への前進と交通災害をなくそうと誓いも新たに祈念する日本人の真心がにじみ出る。

参拝者の服装も初春に華をそえしっとりした大和男子から撫子をおもわせる和服姿等バラエティに富んでいた。

午前五時、新年の祭儀が執り行なわれ、皇室安泰、五穀豊穣、産業文化交通の発展、世界友好平和が心も新たに祈願された。

宗像大神の御神徳をいただき、日本民族の誇りに満ちた年である様願ってやまない。

写真は宗像大社の正月模様。上から祈願殿並駐車場附近。祈願殿内授与所。同控所附近。

御　礼

年末年始に皆様から御郵送いただきました真心からなる初穂料は

昭和四十七年新年大祭に神前にお供えして皆様の健康と弥栄を祈願致しました。

ここに新年の祭儀を盛大に滞りなく御奉仕出来ました事を感謝申し上げます。

宗像大神全国総本宮
宗像大社

特別崇敬者各位

神具、装束
結婚式場用品
株式会社　井筒
九州店　福岡市吉塚二丁目三番三号（〒八一二）
電話福岡（〇九二）六五ー九四五六番
本社　京都市下京区油小路六条北入（〒六〇〇）
電話京都（〇七五）三四一ー三三四一（代）～四番
三七一ー一三三四・六〇八六番

論説

祖先の心に還る

ーある宗像人の述懐ー

この述懐は先頃郷土に住むS氏が、その信仰に大いなる感動を加えさせた沖ノ島参拝を中心に、その心境を綴って送られた手記の一部である。S氏は謙遜されながらも、なかなかの博識でその語るところも極めて観察思考の奥深いものを感じさせる。沖ノ島に遺る陶器の破片を見て、宗像の各地から僅かに得られる陶器に興味を持った。そして現代自窯を築いて陶器の製作に余念がない。やがて立派な作品が、世に出る日を期待して、その述懐を、純真素朴な一宗像人の横顔として見ることにしたいのである。

××××××

先般は私の小宴に、ご多忙中わざわざご出席戴きまして感激致しました。その節唐突に某宗教を捨てて、神道に入ると発表しましたが、一般から見ると無節操に過ぎると思われる嫌いがありますので、その心理経過を一応ご説明してご諒解を得たいと存じます。

一、人類の信仰の原点に立戻りたいと思った事

私は宗像神社の信徒になりたいと思いますが壮大な神殿を拝し目らのご利益を願うと云うのではありません。昔予言者ヨハネが荒野で独り祈り、対話をしたと云うエホバの神も、わが祖先が森の中で神の名を唱えて降臨を待ったと云う神も、イメージが違うだけで同じものだと云う結論に達したからであります。

先頃沖ノ島で古い陶片を見ましたが、それを作った人は勿論じく陶片も土に埋れていましたけれど、それを通じて昔の人達と親しく語り合う事ができたように思います。私は再び信仰の原点に立戻り、遠い祖先の人達が剣や弓矢を手にして山野を跋渉し国を開いていった時代、深い森の中で浄闇に独り神臨を願い神に呼びかけた厳粛な姿を思い浮べたのです。そのような神玄海の洋上はるか水平線上から赫々と昇り来る太陽を仰いで、天に昇ってわれらを覧られる親なる神、そして天地の正気をも感じた一時がありました。それは純真な童心とも云えましょうが、現代の人達は余りに知識が行き過ぎ複雑になり過ぎたとさえ思ったのであります。

二、世は平和ムードにわが世の春を歌って歓びに酔い痴れている事。

経済的繁栄、然し、あらゆる意味でわが国は今程危機に直面している時はないと思います。このままでは日本は精神的に崩壊すると云う危機観から、神社が中心となって日本精神復興への強い運動を興して貰いたいと念願するのであります。

その意味で、宗像の地こそ、少くとも西日本に於ける民族精神復興の根源地として、最もふさわしい地であり、宗像大社はその中心であると思うからであります。私は日本歴史のことに無智でありますが、何だかこの頃宗像こそ大和民族の故郷ではないかと云う気がしてきたのであります。

この辺がわが国土の内で、一番始めに開けたのではなかろうかと思うのは何故でしょう。鬚面を太陽に輝かして鬼とも取り組むような大男どもが、高宮辺りの森の中で殊勝にも膝を折って、神のご加護を願っていたような気がします。そして玄海を縦横にめぐって国土を守り、沖ノ島の祭りを欠くことがないよう執り行っていたとも空想します。

沖ノ島は厳粛な国家鎮護の祭りの場であり、同時に宗像水軍の御城（みたて）として、その根拠地でもあったでしょう。豪華な出土品、その昔これらの品物を持ち出せば神罰があると信じていたから、鍵も番も不要、ただ財宝を捧げて国土の安泰を祈り、ご加護によって勝利を確信する水軍の荒男達が屹立する巨巌の上に立って荒海の彼方を瞰んでいたとの空想があたれば一大ロマンであると思います。その前面の海域で東郷元帥の率いる連合艦隊が、皇国の興廃をかけたいわゆる日本海々戦を展開したのも、偶然でないような気がしてきます。

私が神道に転宗したことの精神的経過を述べるつもりが、なかなか難しくてよく云い現せず余談に走ってしまいました。これから日本歴史を少しでも勉強して、国家の成立とその精神とを知りたいと思っています。

註ーこの手記は、当人の希望があったわけではないが、都合で仮名とし神道に入る以前の宗教名も明記を避けました。

阿蒙少言

ことしの正月南方の島を訪れた日本人は数千人と云われ、グアム島では航空機から降りる人は、オール日本人だったとテレビ・ニュースが伝えていた。数年前から現れた昭和元禄の表現が、レジャーブーム、派手な生活面には当っているかも知れないが、最近内外の情勢は元禄踊りに浮かれているわけにもゆくまい○沖縄復帰、公害、ゲバ棒、無謀開発など多数の難問題による政治や教育への不信国外の対日影響も楽観を許さぬ厳しいものがある。平和共存は単なる社交辞令としか思えぬ各地の争乱。苦悩を抱く昭和乱麻の時代であろうか○経済大国となっても民心小国にとっては、国家の真の繁栄とは云えない。集団闘争、学生ゲバは、当局の取締が強化されても増加の傾向にある。元禄に似てはいない。元禄以後の江戸中期に、農村の凶作による農民の強訴一揆が各地に頻発して、幕府や領主が禁止令を出し弾圧を加えても激化していった様相に近い。教育政治の反省厳戒の時期ではある○元禄十六年（一七〇三）二月に、大石良雄以下の赤穂浪士は切腹した。徒党を組んで公方様の膝下を騒がせた罪が、屠腹の判決となったようだが、武士道の鉄石心を貫いた義烈は、庶民に至るまで多大の影響を与えた。それが斬罪覚悟の強訴を敢行させ、飢餓救済の一揆を暴発させた刺戟剤となったとの説もある○「風誘ふ花よりもなほ我はまた春の名残を如何にとやせむ」の辞世に、浅野長矩の心を幕閣の為政者が読み取って家名断絶を回避していたら吉良邸に山鹿流の陣太鼓は鳴らなかったかも知れない○ゴミを加工して埋め立ての資材を作り、これをハワイに輸出しただけでは、政治的解決にはならない。放置できない精神のゴミを、今後の教育はどう解決してゆくか。　（白雲）

第一三七回

宗像大社歌会詠草

毎月十五日〆切　詠草到着順

田熊　鷲津かつ代
元旦も仕込をはげむ酒倉に蒸米の
湯気白くこもらふ

福岡　桜井ツ子
寝（イネ）しづむ室のいづくかかさこそと
寒夜のねずみ生きる音たつる

名残　竹原圓
共有林の売るる話しが纏るか集会
場に今日も灯が見ゆ

福岡　江崎琴子
霜いとふ庭の鉢木の冬支度心にか
けてはたしける

大井　木原ふさ子
晴れたれど臨む玄海模糊として夫
と佇つ丘枯深かりし

久留米　篠田太郎坊
雑煮にと鰤の切身を買いにけり昔
は大鰤土間に吊りしを

津屋崎　菱花女
蔦紅葉松葉あしらい障子張終えて
眺むる炬燵に入りて

深田　中野節子
待ちていむ薬剤師の免許証吾が子
に送らむとしてみ仏に供う

福岡　吉田信夫
亡き友の二十七回忌に供へんと九
州の酒持ちて京に旅立つ

大井　安部重郎
正月に喜々たる児等を羨しとも我
は初刷りの新聞を読む

大井　安部静子
別荘の如きやどにてくつろぎし孫
等と味わう大晦日の蕎麦

田久　立花勇雄
妻子孫みな出で行けり元日の留守
居するなり老いづける我は

徳重　石松やす子
裏伊勢と仰ぐ宮居の玉垣の一きは
赤く初日に映ゆる

曲　天野トモヱ
大家族揃いてすわる元日に雑煮の
餅ののび過ぎを詫ぶ

大井　吉田ますみ
帰り来し子等とむかえし新年の屠
蘇くみおれば心安らう

津屋崎　麦野時雄
暖冬の雨に濡れたる荒庭の一隅明
るし夏蜜柑熟れて

福岡　麻生初栄
女名の賀状もあまた息子らに来て
若き世代を羨しむ元日

東郷　藤崎辰子
照明の下に選びて贈りたるネクタ
イの色が心はなれず

武丸　原田リノ
船に寝て失なう方位しめすごと朝
日出できぬあらぬ方より

宗像　大穂東雲
年の瀬や杖にすがりて六十九明れ
ば古希の年金のわく

土穴　八尋恒夫
初夢に富士山見んと思いしに雑煮
出来たと妻の声する

戸畑　藤井孝子
初詣身も心をも改まり祈りは永久
に健かにあれ

宮田　片山一
輸血するため集いたる若人の煙草
の煙廊下流るる

宮田　北原君子
夫逝きて二十数年経ちし今日叙勲
の証書吾子が貰い来

宮田　片山朔子
倖せは生れくる初孫待つ日々の厨
にパン焼く匂い充つ朝

吉武　白木うめの
くっきりと虹立つ向うを旅客機の
爆音とどろき雲に入りたり

門司　永島哲夫
二切の雑煮かしこみ病院の五度目
の初日おろがみにけり

宗像　中村幸
御来光拝みし不思議三月経て実感
となり胸のたぎち来

原町　八波五月
今年こそ沖縄復帰の佳き年と大字
あざやかな初刷新聞

戸畑　田中桂一
年頭に吾が医学生の子を訓す言葉
よき友を持てとのみ言いつ

戸畑　田中ハツセ
冬の海の渚の潮にいかをさく女等
によるうみねこの群

勝浦　永島文子
ひこ生の小麦穂出づる新年の狭庭
明るし朝の光に

津屋崎　占部由久
いつの日か復興成れる宗像の神の
みにわをふまむとぞ思う

大島　越智治子
松明の光ほのかにゆれうごき今御
遷座の御魂すゝまる

吉武　早川須磨
秋の陽に黄菊白菊咲き匂い奉幣の
日の神鎮まれり

光岡　河村久光
野の風の吹きし師走に一人こと言
いて今年もかなしく暮れぬ

郷土懐古　宗像の農耕儀礼 (二)

—宗像の石高—

宗像は敗戦前の昭和十二、三年頃は戸数はおよそ六千七百、田がおよそ七千町。それで一戸平均一町二段になる。しかし実際には、自作、小作を通して一町四、五反が平均になるが、それでも二町位耕作しなければやっていけないといわれた。一昔前までは神興や上西郷などでは、米半分、粟半分のめしを食べていた。須恵でも昔は麦、粟めしを食べていた。今は粟などは鶏の飼料ぐらいで、百姓は食わない。蔬菜は昔は蕪、大根、山菜（つわ、わらび、ぜんまい）の類しかなかった。今の宗像の副業としては菜種の栽培で、これが裏作の六割を占め、粟は少くなっている。菜種油は外国へ輸出するのは食料品として、内地では器械用品として使用される。昨十二年は十万袋ほど産出し、七十万円近くの産額であった。

現在では、会合が頗る多く、労働時間は昔の半分もない状態である。社会機構が複雑化して働く暇もなし、お上から誘いかけてくる。県は教育課、学務課だけでなく、社会教育課、等々から、愛国婦人会、女子青年会、国防婦人会、主婦会等、婦人のものでも数箇に分化、そのほか消防組の援助隊までできている現状である。

（花田実氏談）

なお参考のため、黒田五十二万石時代の宗像郡内の各村の高代（石高）を挙ぐれば、およそ次の如くである。筑前国田皇高郡村名寄帳（寛政十年三月写）によれば、宗像郡合高五万六千二百二十二石五斗四升二合二勺四厘と詳しく記されているが、ここでは一斗以下は切捨てて示す。

村名	石高
畦町	三三〇
舎利倉	一九四
鳥巣	六七五
内殿	一三一一
本木	一七六四
上西郷	二三二一
下西郷	二〇四〇
大穂町	二二二五
津屋崎	四六七
大穂村	五二五
渡り	三二七
王丸	七七七
神湊	二〇八
池田	一四一〇
須多田	四九七
田熊	二〇二一
大島	七三八
上八	一二六八
大石	三二二
久原	五七九
野坂	二四六四
鐘崎	八五
在自	八六七
東郷	一四一六
朝町	一一九一
江口	二二五
宮司	六二九
八並	九一六
曲り	一六五九
地ノ島	一八一
手光	一五三三
村山田	九八七
光岡	一二三一
徳重	七四八
津丸	一〇二八
用山	四六三
藤原	一二五二
三郎丸	八二二
久末	三七一
奴山	一四〇三
名残	六七七
平等寺	四五五
勝浦	一四一一
河東	八九二
吉留	一六二八
土穴	八〇四
牟田尻	一〇三六
多礼	八五〇
武丸	二一四七
山田	六八三
大井	一一九三
吉田	三七七
石丸	五六四
田久	七四七
田島	一一九〇
田野	一七二六
赤間	三四五
須恵	四七五
陵厳寺	一四〇七
稲元	一〇七八

この総石高を天保（一八三〇—一四三）郷帳と比較すれば、およそ四十年間に約二千石の増加が見られる。

寛政石高集計	五六二二四石余
天保同	五八二六四石余
差引	二〇四〇石増

なお石高時代順の増加を、一例として八並村についてみれば、次のようである。

慶長期	六八五石
元禄期	七六八石
寛政期	九一六石余
天保期	九二五石余

この村では二百四、五十年間に約二百五十石の増収である。そしておそらくこの増収の主原因は新稲作反別を拡充し、池や堤を建設して水利を容易にしたためであろう。

（筆者註）

前述の宗像郡六十ケ村は、現在大きく合併して五ケ町村となっているが、旧村名は殆んどが字名として現存している。上八（こうじよう）や在自（あらじ）など特異な呼称もそのまま残っている

（古野先生著書より）

× × × ×

〈新年諸祭諸行事〉

敬虔なる祈り満ちて

大復興工事竣工と遷宮奉祝大祭といった大きな事業、大いなる祭り事を終え、清々しい佇いと雰囲気で迎えられた宗像大社の正月は、三ケ日の新年大祭、元旦より十日までは新年交通安全大祈願祭、三日は中津宮元始祭、十日は恵比須祭、十三日は献米奉告祭並鏡餅開き、十五日は、成人祭等が斎行された。祭典には例年にない多くの参列者、参拝者の敬虔なる祈りが捧げられ、初春にふさわしい清らかで厳かなる祭典であった。

諸祈願祭は、国鉄、西鉄を始め多くの交通機関業各社、八幡製鉄所始め各産業、商業各社、県庁を始め各官公庁、消防関係、各地区交通安全協会等々の各種諸祈願祭が絶え間なく斎行されたが、遠隔地からの参拝者が例年より特に目立った。

元始祭

宗像大社中津宮元始祭は恒例通り、一月三日、午前十時より斎行された。

祭典には沖中両宮奉賛会、村長始め全島民がこぞって参列し、国家鎮護、皇室の弥栄、氏子崇敬者の繁栄と安心立命が祈念された。

当日は天候も穏やかであった為か、津屋崎始め島外からの篤信者多数も参拝され、社頭は善男善女で満ち溢れんばかりであった。社頭の遠近で新年の挨拶が交わされ、正月の明るい一コマ一コマが微笑ましかった。

献米奉告祭
並に鏡餅開き

十三日、午前十一時からは例年通り献米奉告祭が斎行された。

この奉告祭は、氏子中より献げられた新米を神前にお供えして、春季大祭に於いて五穀の豊穣を祈願してよりこのかた、大神のかわらぬ御神徳で見事に稔った事を感謝申し上げ、そのお米を献げ奉ることを御奉告申し上げる のである。

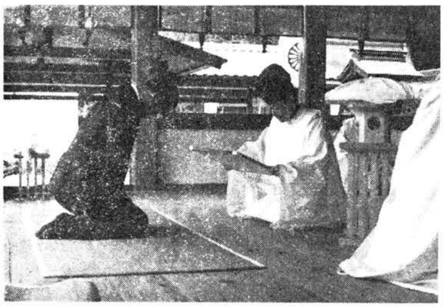
この日は、氏子会長以下役員が多数参列し、また氏子会から献幣使がたてられ、心から感謝の御奉仕と敬虔な祈りが捧げられた。

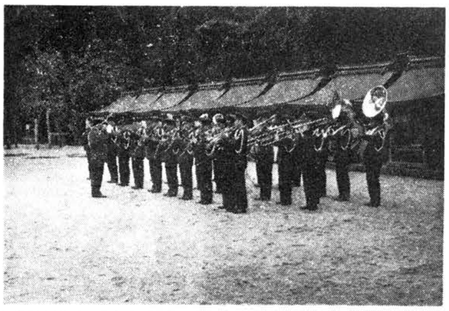
この後、引き続き鏡餅開きが行われた。神前より撤下された鏡餅が〃雑煮〃と〃おしるこ〃にされるが、千数百個用意された切餅がまたたく間にたいらげられ、縁起の良いおさがり餅での鏡餅開きは盛大裡に終了した。

また、この日は当祭々典開始時頃、陸上自衛隊音楽隊が参拝され奉納演奏をされることになり、麗しい新春の錦上花となった。

奉納演奏は祭典の終了時をみはからい、祈願殿前より表参道を演奏しつつ行進し、拝殿脇から奉納演奏がなされた。

祭典参列者や一般参拝者は時ならぬ好機に大へんな喜こびようであった。（写真下）





神社本庁
功労者表彰式
—復興期成会
内田事務局長へ—

此の程、神社本庁より当大社復興期成会事務局長内田澄氏に対して、同氏の篤い神社信仰の念と神社界に対する多大の功労に対し、特別の表彰がなされた。氏は当社復興事業に復興期成会事務局長として其の務に挺身され、当事業並遷宮大祭を無事見事に推進された。

内田氏は出光興産（株）の社員であり、その略歴については以前当誌でも御紹介したので省略する。氏は当社に赴任されてから、祭式行事作法の習得、沖ノ島沖津宮に於ける長期間に亘る修行等、神社奉仕者としての生活も体験しつつ、この御造営事業を推進されたのである。また地元の青少年育成の為、寸暇をみて剣道の指導に当たられ、子供等からも〃内田先生〃と親しまれるなど、一面仕事の鬼かと思われるファイトマンでありながら、全ての人に敬愛されている。

当表彰式は十三日献米奉告祭に引き続き大社神前に於いて行われた。この表彰を大社職員はもとより、総代始め氏子全てが心より喜こぶ次第である。（写真上）

成人祭

一月十五日、午前十時より当社祈願殿に於いて成人祭が玄海町成人者二四七名の参列のもとに行われた。

全国で成人式を迎えた人は一九三万人。宗像郡では一足先に式を行った大島村は別として、各町主催の奉祝式典に、千数百名の成人者が臨み祝福をうけた。

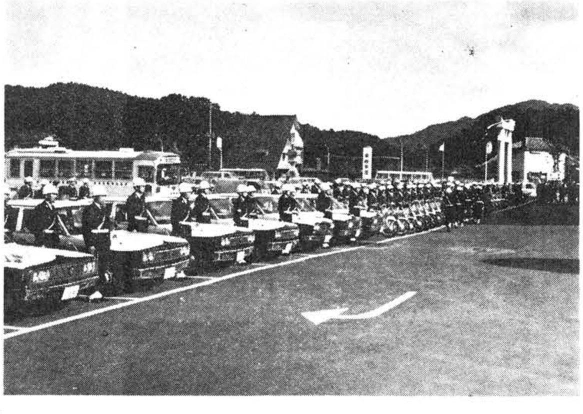
この日はあいにくの雨であったが、晴着が華やいだ明るい一日をかもしていた。

当社神前に成人の奉告と、祈願を終えた玄海町の成人者は、引き続き大社神域に記念植樹を行い、役場に於いて開催される祝賀式典に臨んだ。この後は例年行われて好評を博している奉祝マラソン大会が行われ、成人の力強さをみせてくれた。何にも勝る強く正しい精神力で、りっぱな社会人として今後を力走してくれるよう祈ってやまない。

南坊流初釜

好天の「松の内」も過ぎた一月九日の日曜日午前十時より、当社宿衛舎に於いて、南坊流宗像支部長滝口宗孝氏の席持で茶道南坊流初釜会が催された。

茶席には北九州市内始め近隣より総数百名近くの参会者があり午後三時すぎ盛大裡に終了した。



パトカーも整列して
新年の交通安全を祈る

世の交通安全を祈って毎年1月6日に福岡県交通安全協会が主催して行われる、新年交通安全祈願祭での模様。
当日は県警、陸運局、陸運事務所、各業社代表200余名が参列して行われ、人々の安全運転を願い、交通安全が祈られた。

神湊（こうのみなと）

(18)

楠早鳥作
福田長庵画

合戦　其の三

武光は戦場の跡片附けを願う部下を制してなおも敗陣の余燼をくすぼらせた。

そして広野に入る道筋に軍使を立たせ、兵を伏せて刻をまった。

一方、冬資は四千の兵の先頭にあって勝利を夢みていた。広野が近づくにつれて煙が望まれてくる、昨夜の焼打ちで敵は疲れていると判断し、この期を逸せず攻めあげれば氏俊の功を奪うは雑作もないことと思った。広野の手前で武光の使者と称する者が待ちうけていた。接見すると辞をひくくして、吾方は少弐、松浦党に遺恨を抱くものではない、ただ豊後の探題殿に物申したい儀があり当地まで赴いて来たが昨夜いささか取込みがあり、今日只今より国元に兵を引上げるにつき漸時の猶予を願いたいと請うた。

さては乱戦の中で武光が撃ちとられたか敗軍の余燼、使者の口上凡てのものが冬資の脳髄をマヒさせた。早々に使者を追い返し全軍に進発を命じた。広野の中ほどまで進むと焼けおちた所々の幕舎や散乱した武具が目についた、しかし敵は一兵も見えない。敵は！あたりの草が一面に盛り上った。鯨声があがる、矢が降り注いでくる馬が跳ねた、謀られたか、冬資は完全に包囲されたのを悟った。敵はこの陣屋を中心にして草をかぶり潜んでいた。予想していたほど損傷をうけていない敵が、先づ矢でキ襲をかけ攻撃軍を混乱に陥しいれ次に刀をとった大軍が車懸りに新手を繰り出して襲ってきた血しぶきが上り、あたりの草が見る見る紅に染まっていった。肥後の軍団は、昨夜来の怒りをぶつけるかの様に殺戮を欲しいままにした。武器を捨て降伏を示す敵にも刃は容赦なく襲いかかった。怒号と哀号の中に刻は過ぎた。

冬資の兜の鉢金が錚然と鳴った目が光り、そして暗く思考が陥ちていった。この時、冬資は多々羅川まで追いつめられ流れの中に転落した。そしてこの転落は彼を死から救った。鎧の草摺も切れ、ぼろ布の様に浮んで流れて行く敵を追う者は誰もなかった。冬資が蘇生したのは翌朝下流の砂洲の上であった。

この日の夕刻、香椎に在陣の探題勢の攻撃に赴いた城武顕から小競合の後、敵を退却させ進んで青柳城を手中に納めたと報せが入った。

一先づ軍を青柳まで進めよう、そこで状況を見て宗像に当ろう、武光は反転して博多を奪取すべしと云う諸鴉の意見を退け進発を命じた。博多の街に入り兵に惰気の生ずるのを怖れた故でもある。

翌早朝、大軍は多々羅川を渡河した。丘陵に宗像党の旗差物を見て馬上の武光は苦笑した。昼すぎ軍団は青柳に入った。

「してやられましたな」

武光を屯営に招じ入れた城武顕が笑いながら語りかけ諜者のもたらした状勢を詳細に報告した。

夜討に成功した宗像勢は神湊に帰着し夫々の城に入り領内の百姓を督励し取り入れを急がしている亦探題の軍勢は豊前に向って退いたと伝えた。

「宗像の扱い如何なさるか」

城武顕が武光の決断をうながした。「己の考えでは吾等を血を流させることなく領内を通させる心算とみた、過日の戦で探題への義理は果してあるし、たとえ今吾等と戦っても何の益もない事、吾等もその積りで武威を示しつつ通り過ぎるだけのこと、取り入れの完るまでは、構えて事を起すな、兵を休ませよ」

三日の休息の後、大軍は再び北上を開始した。

宗像平野を一望に見下す許斐城に氏俊と若者は立っていた。平野を真直ぐ横ぎる街道を、物見の一部隊が散開して前進し、先鋒、中堅、殿軍と二万の大軍が整然と、北へ北へと進んで行く、武具が時おり光を反射する。

「危いことであった」

氏俊が軍馬の流れを凝視してつぶやいた、若者が莞爾とほほえんだ。

× × × ×

岡崎工業社長から
"防具のプレゼント"
ー喜こぶ玄海町少年剣道部ー

この程、北九州市八幡区にある岡崎工業（株）社長岡崎春雄氏から、玄海町少年剣道部に剣道防具の"愛のプレゼント"があり、同剣道部の子供達はとび上らんばかりに喜んでいる。

同剣道部は青少年育成の一端として、地元有志、学校当局、宗像大社の協力のもとに発足したもので、今年で十二年。部員も百名を数える大世帯となった。

ところが、この多人数には防具の補足が追いつかず、頭初の防具も耐久限度をこえ、補修も間に合わない現状で、年少の豆剣士は防具なしの基本練習と相成り、いささか意気消沈の態で指導者の頭痛の種となっていた。

このことが当社葦津権宮司から何かのひょうしに岡崎社長の耳にはいり、この度のプレゼントとなったもの。

岡崎社長は、宗像郡出身で八幡宗像会の会長でもあり、郷土発展の為何かとつくされている。

子供等の健気な様子を聞かれ、子供等をたのみますと此の愛情溢れるプレゼントを進んでお申し出いただいた。

突然の朗報で喜こんだ当剣道部の指導員である当大社宇都宮弥宜が早速、福岡市の播磨丈吉本店に防具購入の相談をしたところ同店もこの美談に大へん感銘され、原価でお分け下さり、当初十組のはずが十六組のプレゼントとなった。

子供等はその喜こびと感謝の気持を思い思いに綴り、岡崎社長に届けられると同社長から励ましの手紙が届けられるなど、真心が真心をうむ今日まれに聞く美談となった。以下はその交換文である。

"途中でくじけないで"

玄海小学校剣道部の皆さん明けましてお目出とう。

新学期を迎え寒さに負けずに毎日勉強に体育に頑張って居られることと思います。

さて、このたび私の心ばかりの贈りものに、ていねいな御礼のお手紙を頂き有難うございました。僅かな防具がこんなに皆さんに喜んで頂き活用して居られると聞き私も宗像出身者として、ほんとうに嬉しく思いました。

剣道は皆さん日頃から先生より習って居ると思いますが、「礼に始って礼に終る」日本古来の武道で心と身体を鍛えるには一番よいスポーツだと云われて居ります。どうか稽古を途中でくじけてやめないように頑張って下さい。

私の会社にも剣道部があって社員の人たちが心と技を磨いて居ります。

どうか先生方の教えを守って勉強に運動に励んで下さい。

昭和四十七年一月八日
岡崎工業株式会社
取締役社長　岡崎春雄
玄海小学校剣道部の皆さんえ

随想

"あいさつ"

宗像郡宗像会
副会長　井上陽之助

年末から年頭にかけて、私の随想に「挨拶」というのが浮んできた。"あいさつ"と一口にいっても、時と場合で様々である。講演型の挨拶から、おはよう、今日はお寒うございます、ただいま、など、私の考えるのは左様な、ほんのささやかな、しかし人間味溢るる自然に表裏なく飛び出してくる挨拶についてである。

いつかの西日本紙の「春秋」欄だったか、ニュースとして此種の「あいさつ」が、否その「挨拶運動」がとり上げられていたのを記憶している。瀬高町では、明るい町づくりは町民同士のあいさつから、と町ぐるみ既に其運動が始まっている。大分県の中津は江村で小学校を中心にして「おはよう」は心を結ぶ合い言葉、を標語にして校内はもとよりのこと、校外校区社会一般にそして各家庭内にいたるまで「あいさつ」はどこででも、いつでも、だれにでも、ともう数年前から行われて、大いに効果をあげているそうだ。かく挨拶運動が珍しがらるるほどに世は「挨拶」不在であり、軽視時代であるのであろう。

明けてもくれても、金金（かねで、自分さえよければ、の世相の中で真の挨拶は次第に影をひそめてゆく。平和も、とけ合いも懇親も望むべくもない。従って真のさいわいも生れようがないと言うわけ。

家庭内に於て、親子の仲、子供の通学時代迄は、教育ママのおかげか、お互いのあいさつ、親えのあいさつは仲々よくゆき届いている。時に「おやすみ」を子供が忘れでもしようものなら、ママから叱られる。処が成人して年頃にでもなると、いつのまにか「あいさつ」不在の情況になる。結婚する、たちまち親は親、若者達は若者達、と云った風に一つの壁が出来てくる。するとあいさつ不在どころか、段段別居に迄発展する。若者達の世界には、親子間のあいさつなど全く意に介せない。むしろ挨拶の存在は不合理だ、ふしぎだ、水くさいと言う気持ちで一パイである。そこで家庭が自然に冷たくもなり、円くゆかないことにもなってゆく。

私は日本の家庭は、老夫婦、若夫婦、子供と云った三代同居の形が、最も自然な而して最も希望さるる家族構成だと考える。欧米と大いに異なる処であるが、これが日本の古今を貫く特質であって真の幸福もここから生るると信ずるのである。

私は若い頃、社会に出た後も、いつも父から、耳についた蚊のように「怒りを移すこと勿れ」とやかましく諭された。怒りを移す、やつあたりするのを私達の郷里では「入りぼこり」と言う。「課長の雷」が誘発させたなどよく聞くことである。そういった自身の感情、傷やあかを玄関のそばにおいて家に入れ、修身心を洗て帰宅すべし、と父は云うのである。

だが、君子ならざる凡夫は中々左様に参らず、家に持ち込むのである。家に帰ってから、家でその心の傷を治し度いよごれを落し度い。これが普通人の心ではなかろうか。移すことがいけない、雷を落すのが悪いのであって、家はあく迄も憩の場であらねばなるまい。

それには心からなる「挨拶」より外に手はないのである。迎える者の一言のあいさつ、実に千金の値があるのである。持ち込んでも、それを爆発させないようにする。それが肝要である。明るくなる、平和にする幸せをつかむその基は「挨拶」である。誰にでも、どこでもいつでも心からの挨拶をしたいものである。

「ありがとう」

この前の道具どうもありがとうございました。

ほんとうにぼくたちはうれしくてうれしくてたまりません。

この道具がない時には、こんなふうでした。

剣道のある日の昼からの勉強は何だか、おちついてされなく、教室の時計ばかり見ていたようです。少しでも早く体育館に道具をとりにいかなければ、その人達だけ、最後に六年生からけいこをつけてもらえます。

それで気が気でないのです。もうその心配はありません。

みんなどう着をつけていっしょにけいこができるのです。

ぼくたちの剣道の先生は宇都宮先生、木藤先生、大野先生、内田先生の四人です。

一週間に二回、少年剣道の練習日になっていますが、黒どうや黒ごてをつけてされるのがたのしみです。

みんな力いっぱい元気を出してけいこをしています。

この前、四、五、六年の団体しあいがあった時、玄海小学校は、一位と二位になり、たくさんのほうびをもらいました。

ぼくたちもうんとけいこをしてもっともっと強くなりたいと思っています。

ほんとうにりっぱな道具ありがとうございました。

一度でいいからおじさんもぼくたちのれんしゅうを見にきてください。

（他の手紙を省略す）

【お知らせ】

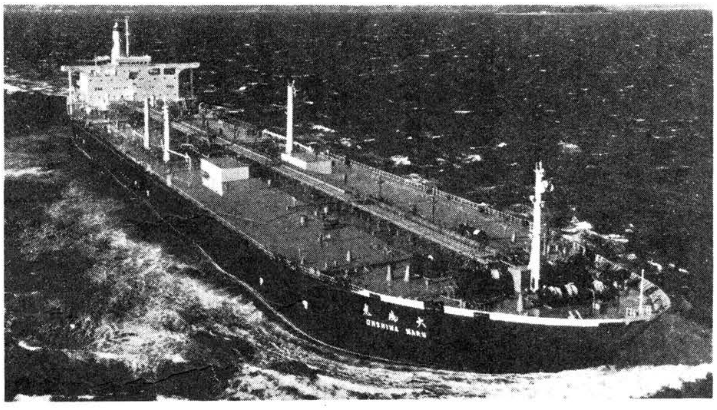
本年度宗像大社歌会"互選会"の兼題をお知らせ致します。

（開催日等は例年通り）

二月ー　二月の野
三月ー　春の川
四月ー　山彦
五月ー　停電
六月ー　陸橋
七月ー　厨
八月ー　扇風機
九月ー　初秋のひかり
十月ー　菊の庭
十一月ー　口笛
十二月ー　こたつ

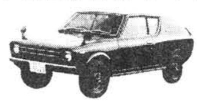
世界最大"大嶋丸"の偉容

全長　317m。　巾　50m。　25万トン。
写真は昨年12月24日　石川島播磨重工業（株）で竣工した出光タンカー（株）所有の世界最新鋭の油槽船「大嶋丸」。
船名は宗像三柱大神の内、湍津姫神（中津宮）が鎮ります大島の地名をいただき命名されたとのこと。船内に宗像神社が祀られている。



話題の新車をみる（五十八）
チェリークーペの巻

第十八回東京モーターショー前夜迄自動車業界は新型車、モデルチェンジ、マイナーチェンジと取りまぜて種々の車を市場に送った。そののび率において最近低迷を続けると云われるだけあって毎年のように各社共、新車開発にしのぎを削り、モーターショーの一ケ月間に発表された車種は小型車だけでレオーネ・クーペ。サバンナクラウン、ファミリア、ギャラン・クーペFTO、チェリー・クーペと六車種にのぼるのである。だがさすがにそれ以降は一月にサニーのマイナーチェンジ車とバンが新発売されただけに止まり、新型車の発表におめにかからないのである。とは云ってもこの業界のことである。年々にイメージを新たにするため、又需要家に飽きられて来ると、新モデルを誕生させなければならない。これは運命であり、いつ迄たっても各社いたちごっこのように新車合戦が続くことになるのである。現在でも噂の線上にある車として、スカイライン、ローレル、コロナ・マークⅡ、レオーネ、セダン等が上げられており、今年中に新型車を市場に送り出すのではないかと云われている。いかなる車が登場して来るか楽しみなことである。



今回は聊か旧聞に属するのであるが、日産のチェリー・クーペについて紹介しよう。日産自動車は従来のチェリーシリーズにプレーンバックと称するクーペ・タイプを追加し、これを昨年9月1日から発売した、搭載するエンジンは1000ccと1200ccの2種であるが、DX（1000cc）1200DX、1200GL、1200GLL、SV型ツイン・キャブ装備の1200XI、1200XILの六車種である。

スタイルはルーフからリヤマンドにかけてなだらかな曲線を描くスタイルと、それにともなう大きなリヤ、フォーターが特徴となっている。新登場のエンジンは現在1200サニーに搭載されている1171cc、圧縮比9、0最高出力68PS／6000rpmエンジンであり、他はセダン塔載のエンジンと変らない。変っているのは冷却ファンをエンジン車体に取付け、クランク、プーリーからベルトで駆動して、エンジンが回転しているときは常に回転していた方式を、ファンをラジエターに固定し、電動式にしたことである。

×　×　×

宗像伝説　其の一一三

「きよ」

むかし宗像郡の渡村に甚六とキヨという夫婦が住んでいた。

キヨは、幼い頃から神仏を敬う気立てが優しい人でした。

やがて夫婦には三人の男の子が生まれたが、年老いた舅姑の世話をしなければならなかったので、生活は苦しく、年貢も満足に納めることが出来ないほどであった。その上、夫甚六は生来体が弱く、女ながらキヨが牛をひき鋤かきをし、夜は夜でおそく迄縄をなったりして一生懸命働かなければならなかった。

ある日、夫は両親、妻、幼い三人の子供達を残してこの世を去った。

年老いた舅姑と三人の子供をかかえたキヨは、今まで以上に汗にまみれて働かなければならなかった。

しかし三人の子供達はキヨの期待に反して一人は病気で寝込み、あとの二人は手のつけられないほど粗暴で、その為しばしば役人のお世話になるような状態であった。それでもキヨは、「子供達はいつかは必ずよくなるのだ」と心に念じてただ黙黙と働き、このような状態の中でも舅姑への孝養は怠ることがなかった。そして毎朝自分の生活を切りつめてでも神や仏に供え物をして舅姑の幸せと、三人の子供達が元気に真面目になることを祈った。それをみて、まわりの人々の中には、食べる物も満足にないのにと言って陰口をたたく人もいました。

子供達の病気や粗暴な振舞がなおる様子は少しもみえず、「このまま死んでしまおう」と思うことがしばしばであったが、そのたびごとに、

「子供達は母である自分がいてもこうであるから自分がいなくなるともっと不幸になるだろう」と思い直すのが常だった。

このような精神状態が数年続いていた或る秋晴れの日、畑仕事をやめて近所の人と休憩していると突然、頭の先から爪先まで雷にうたれたように「びりっ」と何かが走り、そしてまわりが薄暗くなったかと思うと、キヨの前に異様な光景が開けてきた。

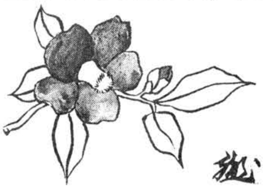
それは血まみれの顔、ふわふわさ迷っている人、嬰児、髪を振り乱した女の人……これらが自分の三人の子供達の袖をつかまえたり、子供達に取り縋ろうとしているではないか。よく見るとそれらの「人々」の顔は、どことなく亡くなった夫や子供達の顔に似ていた。キヨがさらに驚いたことには死んだはずの夫が現われ、澄んだ声で、

「これらの人達は、非業の死を遂げた私の祖先や親戚の者で、霊魂が成仏出来ずに私の子供達に頼ってきているのだ。その重みに耐えかねて子供達の魂がふらつき、病気になったり悪人になったりするのだ。だから皆の霊魂が救われて成仏するように念仏を唱えてよく供養してくれ。そうすれば子供達は元気になり立派になる」と言い言い終ると夫は、すうっと消えていき、あたりはもとのように明るくなった。キヨはしばらく呆然としていましたが、やがていっしょに休憩していた人も同じように今の光景を見たのだろうか思い、顔をじっと見詰めましたが、何もなかったような顔であった。

夢ではないか……「いや、これはきっと心配した夫が知らせてくれたのだ」と思い返し、毎日毎日、念仏を唱えてこれらの供養をしました。それにともなって、子供達の病気や手のつけられない程粗暴な振舞は見違えるほどよくなったという。

宗像大社歌会
俳句作品集（一〇九）

東郷　有吉　春子
修行僧の如く黙して寒に釣る
津屋崎　菱　花　女
冬日向石屋が刻む碑知事の書き
吉留　伊豆　湧泉
冬霞む閉山の街鳩の舞う
東京　小浦　太平
宗像の宮に勅使や初紅葉
津屋崎　井浦　良介
岩風呂のたそがれに降る銀杏の葉
福岡　入江　柳江
白足袋の白に若やき履き初め
大井　木原ふさ子
華燭の宴果てたる部屋の黄菊濃し
田島　有吉　唐水
城山の紅葉うるわし陽もうらら
久留米　篠田太郎坊
初詣鳶が餅を盗るという
大井　安部　重郎
老妻とおがむ別府の初日の出
福岡　麻生　初栄
元朝やうらら日あびて旗なびく
門司　永島　哲夫
世紀の橋見えて和布刈の初詣り
田熊　安部　ユキ
秋晴の大社祭儀も厳かに
武丸　野中　和子
冬眠の蛙をもとへ馬鈴薯掘り
大井　吉田ますみ
ようやくに歩き初む孫縁小春



出光佐三一問一答シーリズ ⑥⑤

働く人の資本主義

出光　私は人間の幸福は老後にあると、このごろ感じております。あなたのいわれた、過去を顧みてよかったというのが、一番しあわせだと思います。過去に悪いことをして〃ああ悪かった〃と思っても、とり返しがつかない。幸いに、私は死にまさる苦しみをしたけれども、それがいまの幸福をつくっておると思います。

バウマン　会長は、資本主義社会主義、共産主義のよいところをとるといわれましたが、マルクス死後百年ちかくたった今日でもなお、彼の教えは、人類にとって重要かつ有益な価値があるとお考えですか。

出光　私は「マルクスが日本に生れていたら、私と同じ道を歩いただろう」といっているんですよ。

バウマン　私は、そのことは贈呈していただいた『マルクスが日本に生れていたら』という本を読んで知っています。

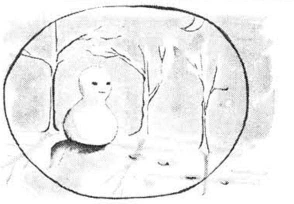
ところでもう一冊この本をいただきたい。帰りまして私の上司に見せたいのですが、もし見せればきっとおもしろがって取りあげてしまうでしょうから。（笑）

出光　どうぞ、余分に差し上げますから、お持ち帰りください。

私の『マルクスが日本に生れていたら』という本に対して、こういう攻撃をする人がおります。「マルクスという人間は性格が悪い人だ。マルクスが日本に生まれていてもお前のようにはならない」と。しかし、これは別の問題です。私はマルクスや出光の個人的性格を問題にしているのではないのです。

バウマン　大変重大な問題をもう一つお聞きしたい。これは私個人としても大変興味のある問題です。マルキシズムについて、会長は「マルクスの思想は受けいれうる」といわれましたが、私の国では、この二十年間、原則としてマルクスの考え方を実際に応用してまいりました。しかし、どうも結果は首尾よくありませんでした。

そこで、会長のご意見をお聞きしたいのですが、なぜ、このような結果になってしまったのでしょうか。原理としてはよい考えなのですが、実際には必ずしもその通りにはいかない。どうすればマルクスのよい考えが正しく用いられ実り多い成功をもたらすことが可能でしょうか。マルクスの理想が現実問題になると必ずしもうまくいかない理由はどこにあるとお考えですか。



出光　私が「日本民族には世界平和に対する責任がある」といっているのはそこです。

それは簡単なことです。マルクスの思想は対立闘争なんです。権利思想は主張するのみを知って譲ることを知らない。それだから対立闘争する。ところが日本は、お互いに仲よくして助けあうという「徳」が根幹である。この徳ということは、外国にないことばです。事実がないから当て字しかない。日本では道徳の根源である徳が数千年間実行されております。また外国には「譲る」ということばはない。外国では譲るということは、権利の放棄であり、卑屈である、となっている。外国には権利思想の道しかないから対立闘争しなければならない。それで労働組合をつくって対立闘争するということなんです。日本では昔からお互いに譲って仲よくやってきている。権利思想の行き詰まりを日本の徳、道徳のあり方によって解決するという簡単なことです。

〃こうすれば人類が平和に、しあわせに暮らせる〃ということを見出すことが、哲学の目指すところであると思うんです。その哲学の目指すところが徳であり、これは人間の真心からほとばしり出てくるものであり、さっき申しあげた、お互いに仲よく助けあうということなのです。世界が平和になる道はそれ以外にはありません。

いまから七、八年前に世界の宗教史学会の会議が日本で行なわれ四百人ばかりの人が各国から集まってきました。そのときに、私に何か話をせよということで、ちょっと話をしたら、あとで十四、五人の人が私の会社にきていろいろ話をしたことがある。そして出光のあり方や経営の話は全面的に賛成されたんですが、最後に互譲互助、譲るという点になったら、みんなが総立ちになって反対しました。ここで少し話を打ち切って、バウマンさんにお茶を飲んでいただいて考えてもらいましょう。（笑）

バウマン　そういたしましょう。（笑）

いままでいろいろと説明していただいたことは、私個人にとって非常に重要であるように思います。

私の国は一九四五年以前は、いわゆる資本主義国でした。そして続いて、これまでの二十年間は社会主義国としてやってきました。だから私は、前後、二つの体制を比較することができます。そして私はいまだに正しい道は何か、について、適切な解決を探し求めているのです。

しかし私はいま、このインタヴューによって、その解決に一歩近づいたように感じます。

出光　ありがとうございます。（笑）

（つづく）

復興期成会のあゆみ（遷宮特集号よりつづく）㈡

昭和二十七年　八月廿九日　辺津宮本殿保存修理費補助通知を文化財保護委員会より接受す
〃　十月十一日　高宮斎場の起工式を行い即日着工す
昭和二十八年　三月十四日　辺津宮本殿の修理完了につき本殿遷座祭を執行す、遷座に際し本殿三神像の上に古例により各天井より錦蓋を垂らしこれを覆ひ奉る
〃　〃　十五日　辺津宮本殿遷座奉幣祭を執行す、天皇陛下より幣帛料の奉奠あり
〃　〃　卅一日　重要文化財辺津宮本殿の防災工事完了す
〃　七月廿六日　沖津宮本殿拝殿の屋根修理工事着手につき奉告祭を執行す
〃　八月　九日　沖津宮本殿拝殿の屋根修理工事完了
〃　十月廿三日　中津宮本殿屋根葺替工事のため假遷座祭を執行し即日着工す
〃　十一月十八日　辺津宮境内末社御鑑持神社、牧口神社屋根葺替のため假遷座祭を執行す
〃　十一月廿八日　辺津宮境内末社千得下府神社、須賀神社、藤宮神社、摂社第三神社の屋根葺替のため假遷座祭を執行す
昭和二十九年　二月　一日　辺津宮境内末社藤宮神社、千得下府神社、須賀神社、牧口神社、御鑑持神社の屋根葺替工事完了につき遷座祭を執行す
辺津宮境内末社政所神社、稲庭上神社、妙見神社、織幡神社の屋根葺替工事着手につき假遷座祭を執行す
〃　〃　十五日　下高宮斎舎用材として伊勢神宮御殿用材の払下げ申請書を神宮司庁へ提出す
〃　三月七日　辺津宮境内摂社第三神社、末社正三位神社、孔大寺神社、国連神社、宮田若宮神社、織幡神社、妙見神社、稲庭上神社の屋根葺替工事完了につき遷座祭を執行す
辺津宮境内摂社第二神社、末社大神神社、貴船神社、和加神社、浪折神社の屋根葺替工事着手につき假遷座祭を執行す
〃　三月十四日　辺津宮末社政所神社の屋根葺替工事完了につき遷座祭を執行す
〃　四月十九日　中津宮本殿屋根葺替工事完了につき本殿遷座祭を執行し翌二十日奉幣祭を執行す。本殿遷座祭に対し天皇陛下より幣帛料を奉奠せらる
〃　五月廿九日　第一次第一回沖ノ島学術調査団結成せられ復興期成会長代理出光泰亮、調査団長小島鉦作以下十九名渡島の上奉告祭を執行し調査を開始す
〃　六月　四日　沖ノ島学術調査を終了し祭祀遺品搬出のため奉告祭を執行す
〃　〃　十五日　辺津宮假設外拝殿新設工事完了につき奉告祭を執行す
〃　〃　十八日　辺津宮境内摂社第二神社、末社和加神社、浪折神社の屋根葺替工事完了につき遷座祭を執行す
〃　七月　一日　第一次第二回沖ノ島埋蔵文化財発掘を文化財保護委員会宛提出す
〃　〃　三十日　沖ノ島埋蔵文化財発掘調査に伴う同島天然記念物原始林の現状変更に関し文化財保護委員会より許可あり
〃　八月　五日　第一次第二回沖ノ島学術調査団結成せられ現地主任鏡山猛外二十四名渡島の上奉告祭を執行し調査を開始す
〃　八月二十日　沖ノ島学術調査を終了し祭祀遺品搬出のため奉告祭を執行す
〃　十二月十六日　第一次沖ノ島学術調査発掘祭祀遺品のうち珠文鏡一、三角縁神獣鏡一、指輪一、勾玉六等を重要文化財に認定する旨、文化財保護委員会より通知あり
昭和三十年　三月廿五日　当社復興期成会長出光佐三、旧松平定教氏所蔵重要美術品宗像神社文書一巻を購入す
〃　四月　一日　高宮斎座式祭場整備工事竣功す
〃　〃　十二日　第一次沖ノ島学術調査における出土遺物に対し現物一括当社に譲与の旨文化財保護委員会より通知あり
〃　六月　六日　沖ノ島築港工事用無電塔設置工事現場より縄文式土器片、弥生式土器片等多数の埋蔵文化財を発見す
〃　七月十八日　氏子総代吉武儀市郎所有地より滑石製舟形、同円盤臼玉、砥石土器発見せられ同人より神社に奉納す
昭和三十年　八月十一日　来社中の社史編纂委員長小島鉦作、委員梅田義彦、同岡田米夫、長沼賢海、玉泉大梁、原田敏明等九州在住の歴史家と社史編纂について懇談す
〃　九月十九日　第一次沖ノ島学術調査出土文化財石器二十七、縄文式土器、弥生式土器、土師器片等の遺物を一括重要文化財と認定する旨文化財保護委員会より宗像署を経由して通知あり
昭和三十一年　一月十三日　第一次沖ノ島学術調査出品現状耳飾一、金銅製杏葉四、金銅銀製鉾鞘一その他玉類等の遺物を一括し重要文化財に認定する旨宗像警察署経由文化財保護委員会より通知あり
〃　二月　五日　沖ノ島出土文化財の所有権保存陳情書を文化財保護委員会宛提出す
〃　八月廿五日　沖ノ島調査報告書編纂会議を福岡出光会議室において開催す
昭和三十二年　三月十二日　宗像神社学術調査委員会規約第二次沖ノ島学術調査会規則を施行す
〃　〃七月五日　沖ノ島学術調査のため文化財現状一部変更許可願並に埋蔵文化財発掘届を文化財保護委員会宛提出す
〃　〃　十二日　沖ノ島第二次調査打合会を辺津宮において開催す
〃　八月十三日　第二次第一回沖ノ島学術調査団結成、復興期成会長代理出光泰亮、調査団長鏡山猛他十五名渡島十四日調査開始奉告祭を執行す
〃　〃　廿六日　第二次第一回沖ノ島学術調査を終了す、滑石製勾玉、同管玉、変形殊文帯方格規矩鏡、刀子等、多数採集せるに依り持出奉告祭を執行す
〃　〃　〃　第二次第一回沖ノ島学術調査において出土の祭祀品発見届を文化財保護委員会宛提出す
〃　九月　二日　沖ノ島埋蔵文化財発見届を宗像警察署長宛提出す。団長小島鉦作同現地主任鏡山猛等列席し第一次沖ノ島学術調査報告書編集会議を辺津宮において開催。二十八日まで原案を検討す
昭和三十三年　九月　七日　沖ノ島学術調査団離島す
〃　〃　十八日　沖ノ島埋蔵文化財出土品鏡二五、玉類五三五、その他鉄器、石剣を重要文化財として認定する旨、文化財保護委員会より通知あり
〃　十月　四日　沖ノ島、大島、田島出土の祭祀遺品に対し文化財保護委員会より一括して現品を譲与する旨の通知あり

（つづく）

――宗像薮庵先生百話――

南方華かなりし頃

宗像太郎坊

トランブラン

ドリアンの番をしているのはまだわかるが、椰子の実の番までしていることがある。床の高い鶏小屋のような家を作って、根気よく中で番をしている。のんきだが、椰子の実の番をしているだけで、ほかの仕事をしなくとも飯がくえるから南洋は有難い。同じ人間の一生でも日本では田の畦を削り合い、心の曲った悪い者の田の畦は隣りの田に弓なりに喰い込んでいる。また、山の頂上まで小さい段々畑が続いていて、車窓からこれを見た外国人が、あれは何かときくそうである。官庁、会社では残業日曜出勤等、自らが苦しんで人間の体力の限界に達しつつあり、早や自分が人間であることを考える時間がないばかりか、考えることすら気が付かないようになっている。

マンデー（水浴）

南洋の人達は毎日、しかも朝昼晩と三回マンデーする。あたかも水浴が好きでやっているようにさえ見える。一番手のかからないのはスコール（豪雨）がやって来たとき、裸足で戸外に飛び出し、雨に濡れたシャツの上からごしごし躰をこする。マレーでは樋で屋根のスコールを受けて、矩形のセメントで作った水槽に溜めている。

作戦中、私達は家人の逃げた空家に泊り、水浴や炊事にこの水の厄介になったものである。暑い国の雨水を溜めた水だと思うと、最初は当りはしないかと気味が悪かったが、結果はなんともなかった。

現地人にとって、湯をわかすことは金もかかるし、また暑いため水をかぶる。井戸水をかぶったり河に浸って水浴したりする。

俳句

満月（トランブーラン）鰐のマハカム娘（コ）は悲恋　無　愁
ゆるやかに泳（ユ）くや鰐の背夕日（ヒ）に染みて　日女人
鰐ねむる淵ゆるやかに渦巻けり　天　山
花椰子のこぼれて鰐のねむる岸　蓬　矢
船遅きメコンの濁り鰐の浮く　雫　果
星の屑オーボル火の屑鰐の淵　素　人
ジャングルのモデロ太鼓や鰐唸う　落　穂
トランブラン河原のサロン冷ゆ　南　洞